

※三年間の思い出、これからの決意

犬伏 一仁

三年間の思い出は、たくさんあるけれど、修学旅行が心に残っています。修学旅行では楽しい思い出がたくさんできて、最高でした。その他、部活、板中祭と楽しい思い出になりました。中学三年間はとても楽しかったです。

これからの決意は、高校に合格することです。それから合格したら、いろいろなことにチャレンジしていきたいです。そして、高校でも楽しい高校生活をおくっていきます。そして、いろいろな夢にむかってがんばっていきます。

※将来の夢 斉藤美幸

純村にな・てみせるぞ

エンジニア

そして私は

キャリアウーマン

※三年間の思い出 滝本 元

中学校に入ってから三年間、やはり部活の事が頭に残っています。みんなとワイワイとにべんばって、とても楽しかった思い出です。

いろいろな人と出会って別れたり、とても楽しかったように思います。中・高・大のような感じがします。中学生としての三年間、とても長かったです。思い出がたっぷりです。そして思い出の多い三年間でした。



※三年間の思い出 三原 達也

僕の思い出は、テニスのことです。最初の新人戦では、一回戦負けでした。でもほかの子が一位、二位、三位をとりました。そして、北島の子がびっくりしていました。でも二年生では、北島が強くなくてはいけません。団体戦で北島優勝、でも個人戦は、板野が優勝しました。休みの日に北島と練習試合をしました。僕は一回戦勝ったのでした。でも北島の二番手に勝つてうれしかった。そして、とうとう総合体育大会がきました。やはり団体戦は北島が優勝でした。個人戦は、僕は二回戦で北島に負けました。そして、北島が優勝しました。個人戦、北島一位、三位が二人でした。板野は二位が一人でした。上板は一人もいませんでした。あの北島に負けてとてもうれしかったです。もう一度試合をして北島と対戦してみたいです。

※三年間の思い出 近藤 大

この三年間いろいろな事がありました。一番心に残っているのは、二年生の修学旅行です。これではいろいろな所をまわっていろいろな物を見る事ができたので、強く心に残っています。

二番目に心に残っているのは、総体です。

総体では、一回戦藍住東戦で延長十三回で四村三で勝った時には、今まで野球をしていて本当によかったです。今までは野球をしていて上板に負けたりして、今まで野球をしていてくたのこしていません。

※中学校生活 柴田 健一

この学校に入學した時、友達とうまくやっていたけれど、中学校生活にはやむを得ないところがあり、不安でいっぱいでした。でも日がたつにつれて友達も増えて、中学校生活を楽しく過ごせるようになっていきました。

二年生になると同和問題学習をしなければならないので、これから生活する上で大切な物を学んだと思います。そして、あ・という間に三年生になりました。もう卒業です。たくさん思い出がありそうです。

※三年間の思い出 佐野 貴之

僕は、この三年間とても楽しかったと思います。少年自然の家や、修学旅行とあとも、いい思い出になったと思います。少年自然の家は、いかだとかがとても楽しい思い出になりました。

板中祭も楽しかったし、マラソン大会も、一年からすると順位もあがって、とても楽しかったです。中学生になって、いい思い出ができて僕は、とてもよかったです。

※いつか街で会ったなら 富原 一晃

マリヤ、マリヤ

僕の胸をこめつた

この街で僕を愛し

この街で僕を憎み

この街で夢を壊したことも

※三年間の思い出

高原里佳

この三年間たくさん思い出があつた。その中で一番の思い出は、一年から始めたバスケットをした。毎日の練習が苦しかったけれど、休みのときや、練習前にみんなとワイワイしゃべりだしたことが楽しかった。先生にいつもおこられたことも今ではとても思い出の一つです。本音にこの三年間バスケットをしてよかったと思います。節活を通じて友達や後輩と仲よくられたこともうれいす。

※三年間の思い出

三宅里下子

私はこの三年間、たくさん楽しい思い出が作ることができました。入学式から始まり、最後の卒業式までいろいろな出来事がありました。

二年生の時には修学旅行がありました。私、九州に行くのが初めてだったので、楽しかったです。初めて同じクラスになった友達とも、仲よくできたの、いい思い出になりました。この三年間、私にとって貴重な三年間になりました。高校でもたくさん



阿部先生



にってるか?

みんなの
にかおえ。

さんく思い出をつくりたいと思います。

おわり



高原さん



佐藤さん



長谷川さん



森さん



長坂さん



宮崎さん



近藤さん



吉田さん



渡辺さん



三宅さん



長崎さん



佐野さん



長尾さん



柴田さん



石川さん



増原さん



斎藤さん



佐藤さん



岡本さん



根崎さん



林さん



大西さん



岡本さん



水田さん



岡田さん



犬伏さん



吉川さん



三原さん



瀬川さん



高富さん



小川さん



榎井さん



二條さん



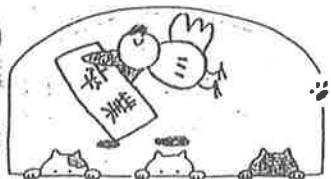
西川さん



浅本さん



上田さん



「光陰矢の如し——」

Time
flies like
an Arrow.

月日の過ぎるのは、本当に早いものです。

希望と期待に胸を膨らませて父母とともに迎えた入学式は、昨日のように思えてなりません。

今、静かに振り返ってみると思いだされるのは、二年生のとき、不慮の事故で亡くなられた稲住さんのことです。

あの明るいそしてやさしい彼女が、今も教室でいっしょに学習しているように思えてなりません。あらためて心からご冥福をお祈りいたします。

さて、三年間喜びや苦勞を分かちあい、そしてお世話になった先生方を思い出してみます。

組	A	B	C	D	E	副
一年	桃井先生	西野先生	六車先生	柴田先生	中川先生	阿部先生
二年	佐野先生	森口先生	仁木先生	桜間先生	阿部先生	植原先生
三年	佐野先生	森口先生	仁木先生	後藤田先生	阿部先生	豊田先生
						山口先生
						橋本先生
						六車先生
						松本先生
						園井先生
						横山先生
						尾形先生
						六車先生

皆さんがこんなに立派に成長し、無事卒業を迎えたのも、先生方のおかげもあること忘れてはなりません。

行事や学習について少し思い出してみると、一年では春の淡路島への遠足でファームパークの美しい

花に囲まれての楽しい食事、一泊研修の半岐少年の家での生まれて初めての夜遊びと魚を釣る人間釣り、釣り道具の修理に大へんであった先生方など楽しい思い出がいっぱいでした。

二年生では、放課後一生懸命練習した文化祭での劇、四泊五日の中国・九州への修学旅行で大規模な秋芳洞の見学、雄大な阿蘇外輪山の眺め、草千里での乗馬、旅館で温泉につかりながらそして部屋での友との語り合いは、昨日野のように思えてなりません。

三年生では、神山森林公園における野外での劇、体育祭での全員なわとび、運動場でのパーペキュー大会、何回も行った遠路決定のための三者面談、理科の時間最後に行く「その場テスト」、№百三十にも達した最初に行うプリント学習などが思い出されます。



しかし、一生忘れてはならないのは二・三年の二年間取り組んだ同和学習です。クラス・学年そして前学年での学習でそれぞれの思いを語り、勇気をもって部落差別解消に立ち向かう生徒に成長し、「支えあう仲間づくり」ができたことは、学習成果のあらわれと確信します。

振り返ってみると、「あつ」という間の三年間とも思われます。お世話になった先生方の中で、三年間同じ学年で学習したのはわたしだけで感慨深いものがあるとともに、皆さんを立派に無事義務教育を終了させる責任をいつも感じていました。三十年余りの教員生活うち、板野中学校で通算二十年間勤務させていたたいたので、皆さんの中の何人かのご両親といっしょに学習しました。時々、皆さんとご両親の顔をダブ

ラセたり、間違つてご両親の名前をいったりしたこともあり、なつかしくそして楽しく過ごせました。皆さんと学校生活おくれた三年間は、深く心に刻まれ、いつまでも忘れることができないと思います。

「二兎を捕らうんよう」

卒業後の遠路の中で、昼間つとめて夜間通学する人達が最も困難な生活を強いられることになると思います。単に就職か進学かというの一本遠路をとる者よりも、数倍強固な意志が要求されるでしょう。特に夜間通学することについて、近年中途退学で挫折する者が多いという事実が、それを証明しています。ここで皆さんに望むことは、「高校卒」の資格取得のためにだけで通学するのではなく、ぜひ勉強することに喜びを見出してほしいと思います。そして、昼間の仕事も最善をつくしてほしいものです。「二兎」を追う皆さん、どうか「二兎」とも捕えられようになんばってください。

「人に頼るな
何事も自分から
積極的に行おう」

高校へ進学される皆さん、高校生活は中学生活と違ってそんなに甘いものではないでしょう。常に自分の頭で考えて学習・行動することです。人に頼らず、先ず、自分で思考し、わからないところは、先生・先輩・友人に教えをこうことが大切でしょう。よくいわれる「知ると知らざるを知る。これ知るなり。」という言葉があります。先ず、自分がわかることとわからないところを知ることが本当に知ることになります。「初心忘るべからず」自分の希望を達成するために、自信をもって自分の力で、自分の未来をきり開いていこうではありませんか。

板中3年3月13日(金) 336号

目的、効果等々、いくつでも理屈はつけられるが、結局は書こころ楽しかった、という一言につきる。「教育論」などはあとから出てきたものである。なぜ楽しかったか？それは、読まざるをゆるむなをみて、激励もいただいた保護者の方から、ゆいりんも共有のものとして支持してくれた先生方の存在が、あたりだ。それだけのことである。しかしその「それだけのこと」のなんと大きなことかと思う。今年で八年回の学年通信になる。毎年、年度末に一冊にまとめてきた。今年元のものも見て、も、よくてきたと思う年もあれば不本意な年もある。よかたと思える年は、通信そのものできこはなく、その通信を生じた一年間のあり方によつて、びや感動が、多く、「一年であつた」と心から思える。

●やんな年の通信である。その意味で、●昨年、今年と続いたような通信は、もう書けなかつたかもしねないと思う。

すいぶん、と勝手なことをや、失礼なことも書いた言葉がすまじたり、足りなかつたりしたところもある。

そんな文章も二年間読め続けたくれたみんなに感謝したい。

※ 今年の卒業生百八十五名は、卒業後も全員が「学習の場」に進むことになった。短大で訓練校の一年、長い人は高専の五年、とりあえずは、それだけの間に勉強が続く、働きながら学ぶ人もある。すべての人々、学ぶことが中心の生活も続けることになる。高校等へは、勉強とする為に行く。社会勉強とか人間、生勉強といった広い意味



祝卒業式

の勉強ではない。机に向つて、おしひ八巻の書物に向つ勉強である。そんな勉強は今ではないとできない。知識も乏け、視野も乏けるための基礎となる勉強に励み、学力もつけてほしい。カリ知になれと言ふところではない。学習を振興して高校生生活は充実したい。実業高校は専門教科の学習がある。それでも半分は一般教科がある。半分もあるのだ。

将来どのような場にも対応できる学力をつけることは、これから数年の間の大きな課題であり目的である。遊ぶことは先でいくらでもできる。先でできることも今、あつてふもなければならぬことを教へられてやる必要はすくなくない。

先生連も又霜杯にがんばっていきなさいと思う。
保護者の方へ
卒業式を迎えました。今子ども達は中学校も巣立って、いよいよです。保護者の方にとってもひとつの区切りであつたかと思えます。卒業にこころをゆだねました。
中学校での三年間、そして特にこの一年間、いろいろな面での御協力、御援助ありがとうございました。いたちめ事の多い私達ではありましたが、おかげでなんとか大過なく子ども達と共に楽しく充実した日々を送ることができました。三年生は何といえども、進路決定という大きな問題があり

保護者の方へ

先生達も又精一杯にがんばっていきたいと思う。

* 今年度は八名の先生でスタートした(百人とは横山先生も含めて九名)その間、園井先生が途中で転勤され、尾形先生が復帰された。阿部先生が結婚され、ついでこの間、ババになった、子とそこの名は春香ちゃん、もう一人すの子。他には特に変わったこともなく、元気でケタケタミウ、そして必死になつてけんを頑張つた一年であつた。学校は、先生達にとつては「職場」である。よく同僚に恵まれるかどうかは、先生達個人にとつて大きな問題の一つ。しかし先生方のおかけで、職場としての学校に来ることも楽しかった。おしなほは言えないエピソードも多い。腹立てたこともあるし、口論になつたこともあるが、やけうは仕事にかける情熱がうしろさであり、口論しなすり、すいなど思つてごさ多いともかく、やまゝしい先生達である。口から先に生まれたいというの地で行くように毎日だった。四月からは、

も現実の壁にぶつあたり、厳しさを申し上げたこともあつたかと思ひます。御容赦願ひたいと思ひます。それだけに程度之差はあへても自分の将来に思はせ、必死考えたことは、一つの貴重な体験になつたと思ひます。上級の学校においても全力を奮つて頑張るべくするものと確信しております。

全体学習で必死に考えた時、四月からの早期学習に一日も休まず参加し先生方の登校も北風の吹く中を待つていた姿、全体合唱で腹の底から声を出し、美味くしゃ大合奏などは強い風の吹くバーベキューともおぼつた、いろんな場面をおまゝに出されます。保護者の方の御理解のおかげでした。

今子とも道もおかえさんお母さんの元におかえしします。ほんとうに長い間ありがとうございました。(三年生 二本真之)